

## 令和3年度みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 開催結果

○日 時 令和3年9月16日(金) 14:00~15:30

○会議方法 オンライン会議

○出席者 みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員 5名

○会議内容

### (1) 令和2年度総合戦略検証委員会の意見について【資料1】

#### 【委員意見】

○「移住定住」について、市のホームページを見たが、情報取得をするのが困難である。移住したい人が見たときに、トップページからアクセスしやすくし、インパクトがある内容を掲載したほうがよい。また、移住者の体験談を見られるようにすると、移住希望者が参考にしやすいと考える。

⇒移住定住に関する情報の集約は進めたが、トップページからの情報の見つけやすさ、インパクトには課題感がある。見せ方を工夫していきたい。

また、情報発信については、SNS等の活用も検討していきたい。

○ふるさと納税については、令和2年度で寄附件数は増加しているが、もっと高いレベルで成果向上を目指さなければならないと考える。全国の好事例等も参考にして、返礼品の選定においてプロジェクトチームをつくり資源の掘り起こしに取り組む必要があるのではないか。

また、ふるさと納税による収支の状況や、寄附金を活用したサービス向上の効果についても具体的に市民に説明し、PRにつなげてほしい。

### (2) みどり市まち・ひと・しごと総合戦略(中期)のKPI結果について【資料2、3】

#### 【委員意見】

○奨学金を利用して市外の大学等へ進学し、そのまま市外に就職する方が多いと思う。地元就職先がないと判断されているのではないだろうか。地元企業に就職した場合には、奨学金の返済を一部免除するなど、地元に戻ってくるような施策が必要ではないかと考える。

⇒奨学金の制度については検討の余地があると思うが、地元に残ってもらえるような対策は検討していかなければならないと考える。

○観光ガイドの会について、観光客がリピーターとなってみどり市を訪れてもらえるよう、集合写真の撮影やアンケート取得によりつながりを持つきっかけをつくるなど、次につなげる取り組みや、おもてなしの質の向上が必要だと考える。

⇒行政と市民団体の皆さんとの情報共有をしながら、一緒におもてなしができるように連携していきたい。

○教育環境について、コロナの影響により成果が下がっているという評価だが、コロナのせいで仕方がないという状況になってしまっていると、とても不安に感じる。タブレットがすべての児童・生徒に配布されたが、自宅学習では活用されていないように思う。

コロナ下でも学力を高めている学校がある中で、地域により格差が出ているのはいか。観光で人を呼ぶことも大切だが、学校教育にも力を入れていただきたい。

⇒令和3年4月の学力テストでは回復傾向が見られているが、引き続ききめ細やかな支援を続けていきたい。

○男女共同参画社会が実現していると思う市民の割合が低いことについて大変低い数字で驚いた。資料では、特にコロナ禍における休校に伴い、母親の休業や在宅ワークによる在宅時間の増加によって家事育児分担の不公平さが可視化されたこと、その根底にある男性の伝統的な「性別役割分業意識」を問題とし、その啓発活動を行うことを対策としている。もちろんこれは大切なことだとは思いますが、「行政がしなくてはいけないこと／できること」はむしろ休校によって母親たちが休業せざるを得ないことへの支援だろうと考える。

### (3) 地方創生関連交付金(地方創生推進交付金)事業の実績について【資料4、5】

#### 【委員意見】

○継続して参加者が活動を持続するために、健康チェックシートをもとにアドバイスをを行い、アフターケアが必要だと思う。参加者が減少した原因として参加費の徴収が始まったことを挙げているが、やめた人に話を聞いてみたらシートの見方がわからないなどアフターケア不足を理由に挙げる人がいた。

⇒保健センターに来庁してもらう健康相談を実施しているため、よりPRに力を入れていきたい。

○参加者の年齢分布については、60代以上がほとんどを占めているということだが、若い方にもアピールして参加者を増やし、高齢者向けのプロジェクトで終わらせないような取り組みが必要だと考える。

○成果として運動に対する意識の高い人の割合を挙げているが、本プロジェクトに参加する人はもともと意識の高い人であると考えるので、結果の読み取りには注意が必要である。

・その他

【委員意見】

○市として SDGs を打ち出した取り組みがされていないということだが、広い目で見れば市の施策と SDGs はリンクするものがあるので、踏まえた取り組みが必要だと考える。  
⇒総合計画の見直しに向け、SDGs の関連付けの検討をしていきたい。

○庁内の効果検証の方法として、成果結果からその原因を導き出す際に、しっかり分析を行い、それをもとにさらに成果が上げられるよう次の事業展開に反映してほしい。  
例えば、空き家対策では説明会を開くようだが、市民が来るのを待っているのではなく、市から出向いて直接空き家の活用希望を確認すれば、もっと成果が上がると思う。  
取り組み方をもっと積極的に、一歩進んだやり方で取り組んでいただきたい。  
⇒成果結果だけでなく、要因の分析からさらにより成果につながるような努力が必要であるので、対策を検討していきたい。

○コロナの状況は1、2年では収束しないと考えられるので、市として今できることを考え直して、あり方を見直す時期ではないかと思う。  
⇒ただコロナを理由にできないということではなく、コロナ下でしかできないこともよく考えながら、事業展開を考えていきたい。